

次世代の選手育成を

スワロースキースキー百年で用具寄贈

飯山スキー100周年記念事業でスワロースキーグループ（丸山哲三代表取締役会長）は11日、ジュニア選手へ関連用具を寄贈した。市役所で開いた贈呈式には同社の丸山会長ら4人が訪れ、足立市長はじめ市内小・中学校長、佐藤飯山市ジュニアスキー連絡協議会長（スキークラブ会長）が出席した。

同社で初の試み。セットにした。本業のほか、スキー教室や事業の際の用具のレンタルなども行い、各方面からスキー産業を支えている。

贈呈品は、スキー手入れ台（チューンナップ台）、スキーと台の固定器具（万力）、ワキシングアイロンの3種類を1

セットにした。

クロスカントリイ用は市内10の小中学校へ1セットずつ。

アルペン用8台はジュニアアルペンスキークラブハウス3カ所に。ジャンプ用2台は飯山ジャンプクラブハウスに配備する。

丸山会長はスキー製造に携わった60年

間で「札幌と長野の



市役所で開いたスキー用具の寄贈式

冬季五輪をはじめ、華やかな時代があったが、国内スキーメーカーが50社から3社になり、スキー人口はピークの200万人が今は700万人。700カ所のスキー場は450カ所になった」と振り返った。

続いて「長野県や飯山市の子どもたちが成人したとき、ス

キーができないことがないよう、各学校で力を入れて、五輪や日本を代表する選手になることを心から期待している」とスキー振興を祈った。

足立市長は「頂いたスキー用具を学校などで十分に生かしながら、今活躍している竹内沢、作山憲斗選手らに続き、飯山から世界に羽ばたく選手が出ることを祈っている」と感謝した。